

太 秋(たいしゅう)

登録番号：第4721号

登録年月日：平成7年9月14日

登録者：農林水産省果樹試験場

(茨城県つくば市藤本2-1)

育成者：山根弘康 山田昌彦 栗原昭夫

吉永勝一 永田賢嗣 平川信之

佐藤明彦 松本亮司 小澤俊治

角 利昭 平林利郎 角谷真奈美

岩波 宏

来歴：「富有」と「IIIG-16」の交雑

実生

特 性

■栽培特性

樹勢は「伊豆」よりも強く「松本早生富有」くらいである。樹姿は開張と直立の中間で、枝の発生密度は中、発育枝は長く、やや太い。枝は硬く弾力性が小さいので、誘引の際には裂けないように注意を要する。葉は長楕円形で「富有」くらいの中位の大きさである。雌花の着生は中位、雄花の着生は多い。外観的に雄花とよく似た完全花を着生し、小さな無核果実を生じることがある。弱小な結果母枝あるいは前年に雄花が着生した結果母枝には、雄花あるいは完全花が着生しやすい傾向がある。良好な結果母枝を毎年確保するために、果樹試験場カキ・ブドウ支場においては主幹形整枝による栽培試験を現在行っている。発芽期は「西村早生」と「松本早生富有」の中間である。雌花の開花期は「松本早生富有」より3日程度早い。

■果実特性

果実の熟期は「松本早生富有」と同時期の11月上旬である。果実は腰高の扁円形で明瞭な斜線溝がある。果皮色はカラーチャート値で5～6の銅橙色であり、赤味を帯びる方ではない。果重は、1結果枝1蕾で葉蕾比13になるように摘蕾し、7月下旬に葉果比20～25程度に摘果を行えば通常350～450gの大果が得られる。肉質は完全甘ガキの中では粗い方であるが、極めて軟らかくニホンナシのようなさくさくとした食感がある。果汁もすこぶる多いため品質は極上である。果実に条紋による汚損が生じやすい。条紋を生じていない部位の糖度は17～18度程度で「伊豆」や「松本早生富有」より1～2度高い程度であるが、条紋が発生した部位は糖度が2～3度高いため、条紋発生果の方が食味が良い。へたすきは輪状で、へたが小さめなのでへたすきが目立ちやすい。しかし、「太秋」のへたすきはへた部が深く裂開するタイプでなく、へたの周囲の浅く生じるタイプなので、日持ち性への影響は小さい。日持ち性は、このようなへたスキ果においても20日程度で「松本早生富有」あるいは「富有」並である。

■病虫害抵抗性

カキの病虫害に対して特に弱いものはなく、通常の防除で栽培できる。

■地域適応性

完全甘ガキの渋残りは夏秋期の温度不足によって生じるので、完全甘ガキ品種の栽培地は主に夏秋期の温度条件によって限定される。一般に「富有」栽培地域に適するが、本品種は渋が非常に抜けやすく、北陸地方沿岸部においてもほぼ脱渋する。

(佐藤明彦)